

第7回 中国圏広域地方計画学識者等会議 議事要旨

■日時:令和6年11月14日(木) 16:00~17:30

■場所:広島合同庁舎2号館6階7号会議室 及び WEB

出席者:別紙のとおり

議 題

- 1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))について
- 2) その他

【配布資料】

- ・議事次第、出席者名簿、配席表
- ・資料1: 中間とりまとめ(素案)の公表について
- ・資料2: 中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(素案)
- ・資料3: 中国圏広域地方計画に関する広域連携プロジェクト検討状況
- ・資料4: 中間とりまとめ(素案) 説明1枚もの
- ・資料5: 中間とりまとめ(素案) 説明PPT
- ・参考資料1: 学識者等会議 規約
- ・参考資料2: 国土形成計画(全国計画)
- ・参考資料3: 中国圏広域地方計画(基本的な考え方)
- ・参考資料4: 中国圏広域地方計画(基本的な考え方) 参考資料
- ・参考資料5: 前回までの学識者等会議等におけるご意見と対応

1. 開会

挨拶 (中国地方整備局長 林局長)

- 前回7月の学識者等会議では、中間とりまとめ案について審議いただいた。
- 本日の会議では、前回いただいたご意見を踏まえ、ブラッシュアップした資料についてご議論いただきたいと思っている。中国地方整備局としては、道路や河川、港湾等のハード整備を実施しているが、そのベースとなっている地域をどのように作っていくのか、様々なご意見をいただきながら進めたい。

挨拶 (中国運輸局長 金子局長)

- 持続可能な中国圏を維持していくためには、インフラ整備や災害対応はもちろんのこと、医療サービスや教育サービス、介護のサービスなどとタイアップ・共創した上での公共交通サービス、物流サービスなどをしっかりすることで産業の生産性の向上に繋がり、産業の構造転換、インバウンドの誘客、広域観光による経済の活性化、それぞれの分野において中国圏の圏域で地域がつながっていくことが重要である。
- 本日も忌憚のないご意見を頂戴したい。

挨拶（国土政策局 天野審議官）

- 全国各ブロックの会議に参加しているが、地域の強み、弱みを踏まえて、地域の将来をどのように作っていくのかというような議論がなされており、非常に意義深いと思っている。
- 今回の国土形成計画は、シームレスな連携により地域力をしっかり活かしていくというところに力点がある。
- 二地域居住の法案が出て、加えて地域生活圏について議論がなされているところであるが、稼ぎと暮らしをどのように作っていくのかを中国圏で議論を進められるということは非常に意義深いと思っている。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- これまでも議論を繰り返してきているところだが、今回の会議が、年末の中間とりまとめの素案公表に向けた最初の山場と思っている。
- 本文の内容の変更、追加は可能だと思っているので本日も忌憚のない意見をいただきたい。

2. 議題

1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))について事務局より説明

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- 各委員の皆様から意見、質問等がありましたら発言をお願いしたい。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

- 資料5について、「中国圏のオンリーワン・ナンバーワン企業」等のデータが古いのでできるだけアップデートしていただきたい。
- 中国経済連合会と知事会が一緒になって中国地域観光推進協議会を運営し、東南アジアでプレゼンテーションやプロモーションをやっている。また、中国経済連合会主催の中国地域カーボンニュートラル推進協議会がカーボンニュートラルを進めるための補助金、規制緩和等に関する国への要望活動をしている。こうした取組みを可能であれば載せていただきたい。
- 「西日本」という言葉が何回も出てくるが、九州圏や四国圏、近畿圏の広域地方計画と平仄を合わせて取り組むという前提であれば問題ないと思うが、観光やカーボンニュートラルに関しては、他圏域と連携していく見通しがあるかを確認した上で記載をしていただきたい。

谷本委員（鳥取大学）

- デジタルの使い方をもう少し幅を持たせて書いてもらいたいと強く思う。
- 暮らしのところで、地域と行政が一体となってという表現がある。その通りだが、民間が結構大切。北海道の例だが、セイコーマートの様に少ない商圈人口でやっていくビジネスモデルが大切だが、そういうニュアンスが読み取れない。その辺を分厚くしていただきたい。
- 中国圏は空港が多い。一つの県に平均して2つの空港がある。インバウンドを考えると、空港をうまく使っていく戦略もある。今は空港の視点があまりない。
- 災害復旧において、現状復旧にこだわらない復旧について記載しても良いのではないかな。

鈴木委員（山口大学大学院）

- 資料5では事前防災対策の推進に関して2箇所程記載していただいているが、資料2の方には出てこないで記載していただきたい。
- 昨年発生した山口県の災害で、十数年前と同じ箇所が同じ様な崩壊形態で被災している。地盤系で出てきたコンセプトである「強化復旧」という言葉を入れても良いのではないか。能登半島地震でも十数年前の地震で補強して対策したところは被災していない。

大島委員（一般社団法人データクレイドル）

- 「活躍人口」が特徴的なワードだが、資料4にそのワードがない。各圏域が横並びで見える1枚ものの中に特徴的なワードがあった方が良いのではないか。

氏原委員（岡山大学）

- 中国圏の特徴の1つは瀬戸内海を有するという点。その島しょ部に対する配慮が文章から感じられない。最近では陸路だけでなく航路の撤退も取り沙汰されている中、島しょ部のネットワークをどう守っていくかについて、第4層の書きぶりが弱い。
- 第3層の記載で、求められる機能が弱すぎないか。3万～10万ぐらいの人口集積があるところで、複数科の診療が可能な病院や日用品等の買回りができるスーパーあれば本当にいいのか。求めている都市機能が低い印象がある。第2層と第3層との間は大分開いている。3～10万規模の都市にも総合病院はあるため、現実より下の機能を書いていないか。第3層は中国圏のキーであるので、本当にこれでいいのか検討が必要。

神田委員（呉工業高等専門学校）

- 中山間・島しょ部における地域産業の振興についてはもっと可能性があると思っている。都会よりも田舎の方が意思決定が早いので、事業開発やビジネスモデルの開発が早いことがある。その意思決定の早さが、日本全体の産業を加速させる可能性があるのだという意気込みで書けないか。ビジネス開発の拠点となることで人口減少抑制ができるというモデルを中国圏から実現していきたい。
- 中国圏の田舎に安心して住むことができるというメッセージをもっと明確に出したい。生業をここでやっていくことに魅力があるということをくっきり出したい。少しでも地元に残って頑張っていこうという人が出てくると良い。
- リダンダンシーの部分は強く書いた方が良い。リダンダンシーは地域の生活上の話だけでなくビジネス上の影響が極めて大きい。災害になると防災とか復旧に目が行きがちだが、復興とか平常時のリスクの低さが経済に結び付くという目線で加筆をお願いしたい。

高橋委員（中国新聞社）

- 公表していくにあたって、議論の成果の見せ方は大切。資料4の一枚物と、資料2の理念のところ、これまでどのような議論が重ねられてきたのか、いわばパッションが出るような書き方ができないか。書き手のパッションや問題意識が伝わるような文章を書いていただきたい。

田中委員（島根県立大学）

○人口減少を危機ととらえるのではなく、先行地域としての中国圏の可能性、ポテンシャルが高いということ計画に入れた方がよい。人口減少が進む先行地域であるからこそ、新たなイノベーションや未来をつくる最前線のチャレンジが生まれるものだと考えており、守りの計画に見えてしまわないように、課題や理念のところにも前向きな可能性をもっと入れるといい。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

○国土形成計画の中の1つのコンセプトに、ローカルとグローバルの融合という言葉が出てくる。その精神を中国圏の計画に入れたい。地方はダイレクトに海外と繋がっていくことを書き込んで、東京一極集中を打破するために、自分たちで海外と繋がっていかうということが表現できたらいい。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○現在、国土審議会 推進部会 地域生活圏専門委員会が動いている。議論の状況について神田委員から情報提供いただきたい。

神田委員（呉工業高等専門学校）

○今年の10月に国土審議会のもとに地域生活圏専門委員会が立ち上がっており、中国地方から私と島根県立大学の田中先生が委員に入っている。
○第1回目の会議では各自が課題認識を共有した。議論の焦点となったこととしては、担い手の確保と、地域内での経済循環をどう考えるかが挙げられた。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○これまでの議論を踏まえ総括する。

- ①災害リスクが多いところを逆に、パッチワーク的な復旧ではなく作り直すという考え方を盛り込む必要がある。
- ②人口減もポジティブに考え、地方の価値を活かす知恵というのを計画に入れる必要がある。島しょ部も含めた、地方の価値をどのように活かしていくのか、どのように知を結集していくのかは重要で、民の力はそこでも発揮されるのではないかと感じた。
- ③グローバル化について、中国圏が海外と直接繋がることをもっと展開していくことも必要である。

○大きな変更が必要な意見は特に無かったが、計画の理念についてもっとしっかり打ち出す必要があるという意見を頂いた。

○以上をもって、議事については終了する。

深井推進室長（中国地方整備局）

○今回頂いた意見については、すぐに反映できそうな部分と議論が必要な部分があり、中間とりまとめの素案の公表以降も議論は続くため、議論を深めるべきものの仕分けを座長と相談した上で、12月に中間とりまとめ（素案）を公表したい。

以上